

食リ事業の実態把握へ

J・FECを現地視察

武部環境大臣政務官

食品リサイクル事業者の実態を把握しようとして、武部新・環境大臣政務官が1月15日、相模原市にある日本フードエコロジーセンター(J・FEC、高橋巧一社長)の飼料化施設を視察した。液状飼料

化のラインをつぶさに視察した武部政務官は、「環境省がやろうとしていることを具現化したビジネスモデル」と同社の取り組みを高く評価した。

当日は、同社の食リループから生まれた豚肉「優とん



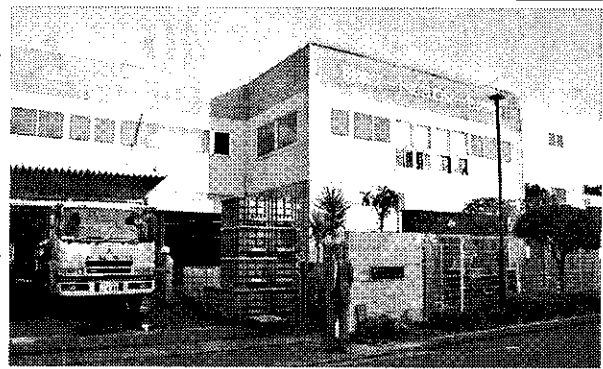
を取り入れた弁当を試食した後、排出事業者から指定容器で搬入された食品残さが異物除去と破碎・

るまでのラインを見てループを回す中心的な役割を担い、ビジネスとしても成功させている。環境省としてこういう仕組みづくりをういていく必要があると感じた」とコメント。

武部政務官は「食品廃棄物からエサをつくる養豚の飼料コストを下げ、健康な豚肉の生産に寄与するだけではなく、生産者と食品事業者をマッチングし

てループを回す中心的な役割を担い、ビジネスとしても成功させている。環境省としてこういう仕組みづくりをういていく必要があると感じた」とコメント。

視察後の意見交換では、自治体の焼却施設が搬入料金を安価に設定していることが食品リサイクルの拡大



日本フードエコロジーセンターの本社工場

は「いろいろな意味で見直さなければいけないということもあると思

うが、コスト面だけではない、リサイクルの重要性を周知することや食育を通じて、こうした取り組みを「エコチョイス」してもらえようという地道にやっという必要がある」と答えていた。

を阻んでいる側面があることについて、高橋社長から指摘があり、これを受けた記者からの質問に、政務官は「再生利用事業者事務連絡会の会長会社でもあるJ・FECは、飼料化で1日当たり38トンの処理能力があり、食リループの認定やエコロイド認証も取得している。食品ロスが国際的な関心事となる中、同社への見学や取材の申し込みは絶えないという。

なお、当日は秘書官の水信崇氏、環境省リサイクル推進室長の小笠原靖氏、同室室長補佐寺井徹氏が武部政務官に同行した。